

# 令和3年度びわ湖舞台芸術スタッフセミナー

## 開催要領

### 1 趣旨

県内の文化施設(文化ホール)に携わる職員を対象として、アートマネジメントおよび舞台技術に関する研修会を開催し、地域における芸術文化活動の拠点としての文化ホールの企画力、効率的な管理運営能力等の向上を図る。

2 主催 滋賀県公立文化施設協議会

3 対象者 文化ホール等の関係職員

### 4 内容

(1) 日時 令和3年9月21日(火) 10:30~16:15 (受付10:00~)

(2) 会場 栗東芸術文化会館さくら  
栗東市糺二丁目1-28 (TEL:077-551-1455)

(3) 参加料 無 料 (滋賀県公立文化施設協議会 加盟施設)  
1,000円/人 (滋賀県公立文化施設協議会 加盟施設以外)

(4) 基調講演 (会場:中ホール)

テーマ:これからの公共ホールのあり方  
~地域文化について考えなおしてみる~

内容:客席数の多少はあるが、国内には約3,500館の公立劇場・ホールがあると言われており、その多くが80年代後半以降に建設されたものである。ところが近年では、人口減少、観客の高齢化、施設の老朽化、文化活動の担い手不足など多くの課題が山積している。さらに今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で貸館の減少、チケット収入の減収などが追い打ちをかけている。中でも市町立の地域ホールにあっては、大切な地域住民や観客との絆、関係性などが疎遠になる等の問題について考える。

また、東京オリンピックで活性化したはずの文化活動が感染拡大の影響でどうなったのか、国スポ2025に向けてどのような取り組みが必要なのかについても考える。

講師:株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長

吉本 光宏 氏

#### 【プロフィール】

1958年徳島県生。早稲田大学大学院修了(都市計画)後、社会工学研究所などを経て1989年からニッセイ基礎研に所属。世田谷パブリックシアター、東京オペラシティ、国立新美術館、いわきアリオス等の文化施設開発、東京国際フォーラムや電通新社屋のアートワーク計画などのコンサルタントとして活躍する他、文化政策、文化施設の運営・評価、創造都市、アートNPO、オリンピック文化プログラム等の調査研究に取り組む。

主な調査研究に「北九州芸術劇場事業評価調査(2003-20年度、(財)北九州芸術文化振興財団)」、「文化・芸術を活用した地域活性に関する調査研究(2011年度、

(財)地域創造)」、「いわき芸術文化交流館 ALIOS 事業運営評価調査(2008-20 年度、いわき市)」などがある。

現在、東京 2020 組織委員会文化・教育委員、東京芸術文化評議会評議員、公益社団法人企業メセナ協議会理事、東京藝術大学非常勤講師等。著作に「文化からの復興(水曜社)」「再考、文化政策(ニッセイ基礎研所報)」など。

(5) パネルディスカッション (会場：中ホール)

テーマ：アフターコロナを見据えたホール運営

内 容：昨年のスタッフセミナーで「コロナ問題について現状と課題」について 4 館の文化ホールから報告を受けた。

今年度は、コロナ収束後を見据えて文化ホールをどのように運営していくべきかについてホール規模や周辺人口の異なる 3 施設から現状を報告し、意見交換を行う。

パネリスト：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館長 山中 隆 氏  
甲賀市あいこうか市民ホール 課長補佐 上村 秀裕 氏  
文芸セミナーヨ 庶務・経理 G L 萩原 愛子 氏

アドバイザー・コーディネーター：

株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長  
吉本 光宏 氏

(6) 分科会

●分科会 1 (会場：小ホール)

テーマ：動画配信のはじめかた

内 容：様々な理由で会場に足を運ぶことが難しい方々に向け、舞台芸術を届ける手段の一つとして注目を集める「動画配信」。今回は、コロナ禍をきっかけに動画配信を始めた 2 館の担当者を講師としてお招きし、配信にあたり必要となる手続きや予算、機材等を実践的に学び、各館の実情にあわせた今後の「動画配信」事業について考える。

講 師：日野町町民会館わたむきホール虹 主任主事 中西 拓実 氏  
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 舞台技術部 部長代理 押谷 征仁 氏

●分科会 2 (会場：中ホール)

テーマ：舞台制作における安全管理と運営手順  
～ひな壇を使用した舞台づくり～

内 容：施設ごとに平台、箱馬の固定方法は概ね各施設とも同じかと思うが、少なからず違いがあると思われる。他施設のやり方を知り、舞台全体に関わる安全管理について今一度考えてみる。

ひな壇組みの一例として、びわ湖ホールの特製台を実際に組んで検証する。また、栗東芸術文化会館さくら(中ホール)で使用している可搬式反響板を用いた、反響板の組み方や、一枚一枚のセッティング位置によって生音の響き方がどのように違ってくるのかを皆様とディスカッションしていき検証する。

講師：栗東芸術文化会館さくら 舞台担当 榎 康博 氏  
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 舞台技術部 舞台機構チーフ 藪内 暖 氏

●分科会3 (会場：研修室)

テーマ：アフターコロナの時代に文化ホールが実現できる「バリアフリー」と「共生社会」  
～今からできる第一歩とは～

内容：全国の公立文化施設において、施設を鑑賞の機能のみに留めず、障害者・高齢者・外国人など、地域に住むあらゆる人々が文化芸術を通じて生きがいを得る「社会包摂」の場として捉え直す試みが始まっている。一方で、人材やノウハウの不足など、取組を始めるにあたっての課題も多いことから、滋賀県では今年度より、市町の文化施設とともにモデル事業を開始している。

本分科会では、バリアフリーイベントの企画制作に携わる専門家からバリアフリーの捉え方・考え方を学ぶとともに、県のモデル事業を事例紹介することで、各文化施設が、個々の現場が持つ課題や制約の中で、いかにして持続可能な形で取組を行えるかを考える機会とする。

講師：一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 代表理事 南部 充央 氏

【プロフィール】

障害者も参加できる舞台芸術の企画制作、運営に携わる。2016年国際障害者交流センターと日本財団パラリンピックサポートセンターによる「障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査」のプロジェクトチームに参画。2019年ピン・チョン演出「生きづらさを抱える人たちの物語」(東京芸術劇場)制作ディレクター。2020年日本博プログラム「障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA」制作統括。株式会社リアライズ取締役。公益社団法人全国公立文化施設協会コーディネーター。著書に「障害者の舞台芸術鑑賞サービス入門 -人と社会をデザインでつなぐ-」(2019/NTT 出版)がある。

公益財団法人びわ湖芸術文化財団

文化芸術による共生社会づくりコーディネーター 藤原 顕太 氏

【プロフィール】

(一社)ベンチ理事、(特非)舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)理事、(特非)Explat 副理事長。

日本社会事業大学福祉計画学科ならびに桜美林大学文学部総合文化学科卒業。(有)ネビュラエクストラサポート勤務、アーツカウンシル東京のアーツアカデミー調査員等を経て、平成29年から令和3年1月まで、(社福)グロー企画事業部において糸賀一雄記念賞音楽祭、ボードレス・アートミュージアム NO-MA、障害者の文化芸術フェスティバル等の企画運営に携わる。現在は埼玉県を拠点に、舞台芸術の制作や、芸術分野と福祉分野が連携したプロジェクトの企画等を手掛ける。

(7) スケジュール (案)

時 間		会 場 等
10:00~	受 付	ロビー
10:25~	開 会 (主催者あいさつ)	中ホール
10:30~12:00	基調講演	
12:00~13:00	昼食休憩	昼食を持参される方は、〇〇〇もしくはロビー・ホワイエをご利用いただけます。
13:00~14:30	パネルディスカッション	中ホール
14:30~14:45	休憩	
14:45~16:15	各分科会	分科会1:小ホール 分科会2:中ホール 分科会3:研修室

<ご来場される方へのお願い>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下についてご理解・ご協力をお願いします。

- ・来館時は必ずマスクを着用ください。
- ・当日の検温をお願いいたします。
- ・館内に手指消毒用アルコールを設置していますので、ご利用ください。
- ・発熱・体調不良の場合は、参加をお控えください。
- ・一定の間隔をあけて着席ください。
- ・入場時等は一定の距離を保ってお並びください。セミナー前、休憩時間では極力会話をお控えください。
- ・資料などの配布物は所定の位置に設置しますので、ご自身でお取りください。
- ・スタッフも全員マスクを着用し、極力声を出さないようにいたします。また、フェイスシールドや手袋を着用する場合もございます。
- ・当日の参加者の名簿を栗東芸術文化会館さくらへ提出いたします。  
また万が一、セミナー後に感染症を発症された方がいらっしゃった場合は、保健所等の公的機関に求められた場合、参加者の名簿を提出いたします。